

あまりの小数点の位置について考えよう

子どもたちは小数の割り算について学習をしています。本時では、小数の入った割り算の場面で、あまりの小数点の位置がどこになるのか、また、その理由を説明することに取り組みました。取り組んだ問題は「24.5mのロープを5.6mずつ切ってなわとびをつくります。何本できて何mあまりですか」という問題です。

多くの子どもたちが「24.5mと5.6mのまま筆算をして4本できて21mあまり」と答えますが、次第に疑問が膨らんでいきます。



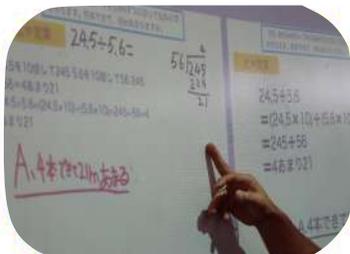
①授業の最初に先生は「7mのロープから2mの縄跳びを作りたい。何人分できて何m余るかな」と問いました。「式は?」「確かめ算もできる?」「数直線でもできる?」



②「今日はあまりのある小数の割り算をやってみます」「この問題の式はどうなる?」「『 $24.5 \div 5.6 =$ 』だね。では、スクールタクトでやってみよう」



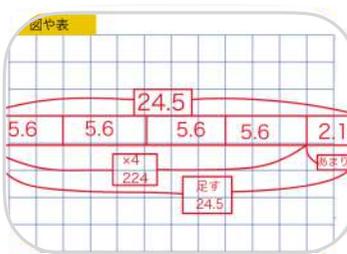
③子どもたちは、すぐに問題に取り組みを始めました。「式わかった?あそこに書いてあるよ。」と、先生はすぐに声かけを必要とする児童の支援を始めました。



④「2人の考えを見てみましょう。」「2人は21m余るでいいですか?」「班で相談してみても?A君どう?」
A君:「21mも余ったら1本も作れないことになっちゃう。」



⑤「友だちの考えを参考にして、考えてみましょう。図を書いたりしている人もいますので、よく見て自分の考えを確かめなにしていこう。」



⑥「確かめ算」をやったら21mのあまりではないことに子どもたちは気付きました。図を書いて考えた友だちの考えに触れてその解決方法を見出していました。

本授業は学校CIO研修会のために、講師の東原先生の助言を受つ富県小学校の先生方によって設計・実施されたもので、本記載内容は、授業者である 和田周作 先生の実践をもとに推進センターが編集したものです。

「学校CIO研修会」で提供していただいたお二人の授業について寄せられた感想をいくつか紹介させていただきます。

和田周作先生の授業から

今回の授業では、教材研究の深さが大事であることをあらためて認識することになりました。先生がもともと全員がつまづき、共通のテーマになる要素をきちんと整理して、そこにクラウドを加えて学級全体が考えるようにあつらえられていました。これは和田先生の授業力があるからだと感じました。個々が考えている場面で「頭が爆発しそう」とつぶやきながらも粘り強く取り組んでいる児童が見られたのも印象的でした。また、テーマがはっきりした上で、躊躇無く自分の考えを発表しているのは、日頃の学級経営が上手くいっているからこそであると感じました。今までの教師が持つ力の上に、新しいものを(置き換えるのではなく)載せることでこれからの時代にいきる子どもを育てることができることをあらためて感じました。

先生と子どもたちが信頼関係で結ばれている素敵な学級だと感じました。21mではなさそうだった時、子どもは心が揺さぶられ、学習課題がすわったと思いました。ここで、自分の考えや迷いなどについて友達と対話をする必要感が生まれていたと思います。ICTの活用により、他のお友達の考えを知ること自分の考えと比較検討することができ、更に考えを構築するために有効に働いていくと思いました。Aさんのノートを紹介したことで、「Aさんののを基にしたらできた!」という声もあり、ICTの良さがいきった場面であったと思いました。先生がICTを対話の場面でどう活用するかについて研究を重ねておられる姿に私も刺激を受けました。たくさん学ばせていただきました。

宮澤ミチル先生の授業から

グループでつくったボイスアンサンブルを聴き合う時の児童の表情がとてもよかったです。一回聴いただけでは気付けない工夫や良さをイヤホンで聴きたい部分だけ繰り返し聴きながらまとめていく過程にICTの価値が位置付けていました。友達からの感想をもとにさらに工夫した音楽に仕上がったものを聴いてみたいです。とても楽しい授業で児童の意欲の高まりを感じます。ありがとうございました。

ボイスアンサンブルの実際を初めて見せていただきました。ICTと親和性が高い教材だと感じました。イヤホンで聴き直し、気に入った音楽を選び、発見した工夫を書き込んでいく過程で、自分の音楽へと立ち戻っていくような活動のよさを感じました。ミチル先生の「私も必死で覚えました」というコメントが正直で、子どもたちも安心して授業に参加できていると思います。ミチル先生のチャレンジ、素晴らしいなと思いました。

自分達で演奏した時に工夫したことについて、他のグループがどう演奏しているのか聞き比べることを自分のペースで何回も行うことができたことで、感想を持つことができたと思いました。さらには他のグループの演奏に触発されて、足でリズムをつけてみようとする姿も見られたように、自分達の演奏を良いものにしようとする意欲が湧いてきたと思います。これらの姿はタブレットを使用していたから出てきた姿だと思いました。

※宮澤先生音楽の授業はNO78に掲載しています。

※「学校CIO研修会」の様子は「ICT活用教育」NO78,80にも掲載していますので合わせてご覧ください。